

[ 第 1 号報告 ]

1-1 . 2012 年度事業計画書

- 1 . 概況：重点活動
- 2 . 会員の異動予想
- 3 . 会議等に関する事項
- 4 . 実施事業 1：調査研究活動（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）
- 5 . 実施事業 2：人材育成（定款第 4 条 1 項 4 号）
- 6 . 実施事業 3：学術講習会の開催（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）
- 7 . 実施事業 4：会誌の刊行（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）
- 8 . 実施事業 5：論文誌・学術図書等の刊行（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）
- 9 . 実施事業 6：標準化活動（定款第 4 条 1 項 3 号）
- 10 . 実施事業 7：国際活動（定款第 4 条 1 項 5 号および 2 号）
- 11 . その他：関連学協会との連絡および協力（定款 4 条 1 項 6 号）
- 12 . 法人運営

（参考）情報処理学会 中長期計画

# 2012 年度 事業計画書

## 1. 概況：重点活動

未曾有の被害をもたらした東日本大震災から約 1 年が経過し、各方面で復興に向けた取り組みが進んでいる。また、災害発生時および復旧の過程で起こったことの検証とそれを踏まえた今後の社会のあり方の議論も進められている。情報処理技術は、その検証作業においてさまざまな形で活用されているが、情報処理技術自身についても、その果たした役割の評価と課題の分析を行い、さらなるレベルアップが必要とされている。その活動を本学会がリードし、人と社会の平和と幸福のためのより良い情報環境の確立を目指す。

グローバル化、少子高齢化が進む中で、情報処理技術への期待はますます大きくなるとともに、新たなパラダイムやそれを支える基盤技術の確立が急務である。本学会の継続的なテーマである学会価値の向上、会員数の増加、財務の健全化に重点的に取り組む。そのために、調査研究活動の一層の活性化、実務家向け事業の活性化、学会運営体制の見直しを行い、学会価値の向上と会員向けサービスの充実を図り、会員数の減少を抑制し、黒字化運営を継続する。

### 1.1 グローバル化：インパクトファクタ取得対応および海外学協会との連携推進（8.1 項(2)、10 項参照）

英文論文誌 JIP のインパクトファクタ取得に向けて、安定した季刊発行体制の整備と、さらに月刊化に向けた施策の検討を行う。2012 年 4 月 16 日にインパクトファクタ取得申請を行い、2012 年度中の取得を目標とする。

海外学協会との連携を推進し、これにより研究会活動のグローバル化をさらに推進する。

### 1.2 実務家・IT プロフェッショナル向け活動の強化（5.3 項、6.2 項、6.3 項参照）

IT フォーラム、ソフトウェアアジア、デジタルプラクティス、連続セミナー・短期セミナーなど、各種の実務家向け活動を通じて、IT プロフェッショナルコミュニティの構築を図り、会員増、収入増に繋げていく。

高度 IT 人材資格に関しては、情報処理推進機構（IPA）とも協力して試行開始に向けた具体的な準備を行う。

情報サービス産業協会（JISA）、日本情報システム・ユーザー協会（JUAS）などの実務家・IT プロフェッショナルを対象とする団体との連携をさらに深め、共同イベントの開催などを推進して、会員増に繋げる。

### 1.3 学会運営体制の充実（9.1 項（2）、12.2 項参照）

実務家・IT プロフェッショナル向け活動関連委員会の改組、情報規格調査会との連絡会議の設置のほか、理事の担務を見直して運営体制の充実改善に取り組む。

中長期計画の具体化と推進を図るとともに、継続的な見直しを行う。

アドバイザリーボードからの提言を適宜諸事業へ反映していく。

### 1.4 社会への提言（5.4 項(2)、12.1 項(4)参照）

情報処理技術に関する中心的学会として、国の政策・方針に関する提言、情報セキュリティ、情報教育など広く国民に影響の大きい事象に関して、積極的に提言を行う。

### 1.5 会員サービスおよび広報の充実（12.1 項，12.2 項参照）

企画政策委員会において、会員サービスの向上および広報宣伝の充実のための施策を企画し、会員の目線で、魅力ある学会作りを目指す。具体的には、今年度は次を実施する。

- 各種メディアを活用した積極的な広報活動推進
- 事業評価データの継続的な収集と分析・改善
- 電子図書館を中心とするオンライン刊行物を利用した新しいビジネスモデルの推進

---

## 2．会員数について

---

会員数については下記の取り組みを実施し、会員減少数を 100 名台（前年度：284 名減少）まで改善する。

- ・ 将来の正会員の母体となる学生会員数の増強施策を支部と連携して取り組む。
- ・ 正会員の減少の歯止めの施策を、企画政策委員会を中心に検討して対応する。

会員種別	会員数		増減数 -	備考：2012 年度の異動内訳				
	2012 年度末	2011 年度末		入会		退会		資格 喪失
名誉会員	38	37	1	1	正会員から異動			
正会員	16,643	16,907	-264	500 760	学生会員から異動	1,050 1	名誉会員に異動	473
学生会員	2,545	2,446	99	1,370		500 760	正会員に異動	11
個人会員 計	19,226	19,390	-164	2,631		2,311		484
賛助会員 (口数)	246 (549)	246 (537)	0 (12)	15 (37)		15 (25)		

\* 正会員には終身会員 355 名を含む。

---

## 3．会議等に関する事項

---

下記の会議を計画する。特に開催数が多い各種委員会については、メンバの厳選および TV 会議の活用などを図り効率的な運用に努める。

### 3.1 2012 年度通常総会

2012 年 6 月 5 日（火）に、学士会館（東京都千代田区）で開催する。

### 3.2 理事会

年度内に 6 回以上開催し、学会活動に関する諸事項を審議する。

### 3.3 各種委員会

必要に応じて開催し、所轄活動に関する諸事項を審議する。

---

## 4．実施事業1：調査研究活動（定款第4条1項1号および2号）

---

学会のコアの活動として重点的に取り組む。グローバル化への対応や新しい研究領域への活動拡大などを旨とする。具体的には下記の取り組みを行う。

新規分野の開拓

グローバル対応の取り組み検討（IFIP 他）

各研究会の国際化の奨励（国際会議・シンポジウム開催，英文論文誌 JIP への投稿，英語講演会）

調査研究活動積立金の活用：国際化推進，登録費値下げ，研究会登録者へのメール配信システムの運用等に活用

学生会員の取り込み

研究報告・シンポジウム論文集等の投稿・編集・発刊作業の完全オンライン化推進

関連諸活動との連携と協調（会誌，全国大会等）の強化

### 4.1 研究発表会 [所掌：調査研究運営委員会]

以下の 39 研究会，2 研究グループ（詳細は p.83「付表 1」参照）により，160 回程度（前年度 157 回）の研究発表会を開催する。

### 4.2 シンポジウム・ワークショップ等 [所掌：調査研究運営委員会]

シンポジウム・ワークショップ等については 26 回の開催を計画する（詳細は p.84「付表 2」参照）。

### 4.3 表彰 [所掌：各選奨等委員会]

優れた研究発表や業績等を顕彰するため，山下記念研究賞，長尾真記念特別賞，喜安記念業績賞，若手奨励賞などを贈呈する。

---

## 5．実施事業2：人材育成（定款第4条1項4号）

---

関連学会・関連団体と連携して，学校教育ならびに企業の IT 技術者育成に関して，下記の取り組みを実施する。

### 5.1 情報教育カリキュラムの策定 [所掌：情報処理教育委員会]

#### (1) 次期カリキュラム標準への着手

新設した時限の委員会を中心に，大学院・学部の専門情報教育（副専攻情報教育を含む）から，初中等との連携も加味した一般情報教育までを俯瞰し，次期カリキュラム標準ならびにアセスメントの基幹方針を 2013 年度までに確定する。

#### (2) 情報専門学科におけるカリキュラム標準（J07）のフォローアップ

J07 の普及・改訂，教科書など教材の整備・提供・普及などを引き続き行う。J07 のフォローアップ活動の一環として，大学の情報系学科における達成度レベル調査，および産業界の要求レベル調査を行う。

#### (3) 初中等教育での情報教育支援

初中等教育に関して，他学協会とも連携しつつ，情報教育カリキュラムの観点から現場への支援・連携を進める。

## 5.2 アクレディテーション（技術者教育プログラムの認定） [所掌：情報処理教育委員会]

アクレディテーションによる大学・大学院専門教育の質的向上の推進ため、日本技術者教育認定機構（JABEE）委託の認定評価を行う。関連して、認定校・受審予定校のコミュニティの育成、ソウル協定・専門職大学院認証評価などの活動支援を行う。

## 5.3 資格制度 [所掌：IT プロフェッショナル委員会]

高度 IT 人材資格認証制度の実現に向け、制度試案を広く一般に公開し試案への意見を求めるとともに、制度の実施に向けて情報処理推進機構（IPA）、IFIP IP3（International Professional Practice Partnership）など関連組織のコンセンサスを得ながら活動を進める。

さらには、企業の社内資格制度の認定に関する制度設計を実施するとともに、2013 年度の制度試行に向けた活動に着手する。

## 5.4 その他 [所掌：情報処理教育委員会]

### (1) 教育シンポジウムならびにコンテストの運営・後援等

教育に関するシンポジウムならびにコンテストを企画運営する。特に、大学生、高校生等を対象とするコンテストの後援を推進する。

### (2) 「情報処理学会 教育ビジョン 2011」の推進

教育ビジョン 2011 の中で掲げている活動指針のひとつである「教育に携わる諸部門とのさまざまな形での協働」を推進するための環境や仕組みを試行する。また、教育への関心を高め、初中等教育現場への支援の一翼とするべく、学会誌上で教育関連記事の連続掲載を継続する。

### (3) 表彰等

優れた教育の実践等を顕彰するため、優秀教育賞・教材賞を贈呈する。

資格制度、試験制度、CPD（Continuing Professional Development）、技術士制度等について、必要な活動を行う。

教材、講義素材、講義資料などのデジタルアーカイブ実現に向けて調査・検討を行う。

---

## 6 . 実施事業 3：学術講習会の開催（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）

---

学術講習会は、学会の貴重な収入源であるとともに、学生も含めた若手研究者の活動の場あるいは企業の IT 技術者の情報交換の場である。2012 年度は下記の方針で取り組む。

- ・全国大会と情報科学技術フォーラム（FIT）は、前年度の活動レベルを維持する。
- ・企業の IT 技術者向けの講習会などの活動を活性化する。

### 6.1 全国大会 / FIT

#### (1) 第 75 回全国大会 [所掌：全国大会組織委員会]

会期：2013 年 3 月 6 日(水)～8 日(金)，会場：東北大学 川内キャンパス，  
参加者見込：約 3,000 名（前年度 2,864 名）

#### (2) 第 11 回情報科学技術フォーラム（FIT2012） [所掌：FIT 推進委員会]

会期：2012 年 9 月 4 日(火)～6 日(木)，会場：法政大学 小金井キャンパス，  
参加者見込：約 1,600 名（前年度 1,610 名）

(3) **表彰** [ 所掌：全国大会組織委員会 ]

優れた発表を顕彰するため、全国大会優秀賞・奨励賞などを贈呈する。

6.2 **連続（短期集中）セミナー/ソフトウェアジャパン/プロシン**

(1) **連続セミナー2012** [ 所掌：セミナー推進委員会 ]

産業界向けのイベントとして以下を企画，開催する。参加者数見込：約 130 名。

全体テーマ「ビッグデータとスマートな社会」

- 第 1 回 ビッグデータの解析と価値発見
- 第 2 回 個人データの保護と活用
- 第 3 回 都市をマネジメントするビッグデータの可能性
- 第 4 回 ソーシャルメディアの大規模ネットワーク分析
- 第 5 回 ビッグデータに立ち向かう機械学習
- 第 6 回 ビッグデータ時代の自然言語処理

(2) **短期集中セミナー** [ 所掌：セミナー推進委員会 ]

産業界向けのイベントとして，社会的関心度の高いテーマ，時事性の高いテーマをとりあげ，1 日開催のセミナーを開催する。

(3) **ソフトウェアジャパン 2013** [ 所掌：IT フォーラム推進委員会 ]

会期：2013 年 2 月（予定），会場：東京都内（予定），参加者数見込：600 名

プログラム，運営，収支の改善，スポンサーの拡大，参加費の有料化  
IT フォーラム，デジタルプラクティスとのシナジー強化  
表彰制度の拡充：ソフトウェアジャパンアワード

(4) **プログラミング・シンポジウム** [ 所掌：事業運営委員会 ]

第 54 回プログラミング・シンポジウム  
夏のプログラミング・シンポジウム  
情報科学若手の会

6.3 **IT フォーラム** [ 所掌：IT フォーラム推進委員会 ]

次の 5 つのフォーラムで活動する。

サービスサイエンス/ユニバーサルデザイン協創/IT ダイバシティ/高度 IT 人材育成  
コンタクトセンター

若手の IT プロフェッショナルのニーズに応えるような新たなフォーラムも立ち上げる。

各フォーラムのアクティビティ確認とそれに基づくフォーラム組み替えの仕組みを検討し，自律的・継続的な活動となる仕組みを確立する。

戦略的な広報活動とアウト・リーチする仕組みの確立のため，日本情報システム・ユーザー協会（JUAS），情報サービス産業協会（JISA）など，ターゲットとする関連コミュニティとの連携を強化する。また，IT プロフェッショナルが学会に何を期待するのかをフォーカスグループなどにより調査する。

デジタルプラクティス編集委員会，IT プロフェッショナル委員会，高度 IT 人材資格制度設計 WG との連携を強化して，IT プロフェッショナルに魅力のあるソサイエティに向けて検討する。

#### 6.4 コンピュータ将棋とトッププロ棋士との対局 [ 所掌：事業運営委員会 ]

清水市代女流プロに続くプロ棋士（最終的にはトッププロ棋士）との対局を実現するため、コンピュータ将棋 WG で以下の活動を行う。

##### (1) コンピュータ将棋システム「あから」の最新版開発

2013 年にトッププロ棋士と最終決戦を行う想定で、「あから 2013（仮称）」の開発を行う。基本的には合議システムを想定するが、2012 年 5 月のコンピュータ将棋選手権の結果を踏まえて WG で検討して方式を決定する。

「あから 2013（仮称）」を動かすための大規模なクラスタシステムを構築する。

アマチュア強豪等との対局の実施、およびその結果の分析によるコンピュータ将棋の弱点の発見とその対策を実施する。

##### (2) コンピュータ将棋を題材とした情報処理に対する興味を喚起するためのイベント等の実施

全国大会等の本会行事、あるいは関係団体の行事において、コンピュータ将棋に関するシンポジウム等を企画、実施し幅広い層に対して情報処理技術の進歩を PR する。

##### (3) プロ棋士との対局実現に向けた関連団体との折衝

対局実現に向け、将棋連盟およびスポンサー候補との折衝を継続的に行う。

#### 6.5 AI プログラミングコンテスト（仮称） [ 所掌：事業運営委員会 ]

学生や若手技術者の育成を目的として、世界規模の対戦型プログラミングコンテストを開催（世界 4 地域で予選を行い日本で決勝戦）する。

#### 6.6 各支部による支部連合大会、講習会等の開催 [ 所掌：各支部 ]

各支部において支部連合大会、講習会等を開催する。

九州支部では、学生会員育成のための支部特別事業として「日韓国際交流イベント」を開催する。

---

## 7 . 実施事業 4：会誌の刊行（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）

---

全会員に配布される唯一の媒体として「読まれる会誌」、「魅力ある会誌」を目指す。会員からのフィードバックを参考に、特集と連載中心の編集を行う。

### 7.1 会誌「情報処理」 [ 所掌：会誌編集委員会 ]

#### (1) コンテンツ

「読まれる学会誌」を目指して、会員サービスという観点からも、会員増という観点からも学会誌をさらに面白いものにすることを目指す。

賛助会員アンケートによる意見をフィードバックする。

連載記事のバラエティを増し、幅広い読者に読まれる会誌とする（例：海外情報、人物紹介、自己啓発、教育関係など）。

毎年季節を考えた定番記事を作る。

記事の補足情報を Web に掲載するなどオンライン版との連携強化を図る。

過去の記事・論文を利活用する施策、例えば、オンライン版別冊の企画などを検討する。

オンライン化・冊子体廃止の是非を検討する。

## (2) その他、広報・宣伝の充実および編集体制の改善

会誌への広告掲載，IPJSJ メールニュースへの広告掲載，Web サイトへのバナー広告掲載，カタログ同封サービスへの広告掲載の魅力を高め，企画政策委員会等と協力して広告活動に一層努力する。

別刷の購入を視野に入れた特集等の企画を積極的に行う。

特集記事に関連した広告を掲載できるように広報活動を強化する。

Web に委員の所属を記載し，メーカ等から委員を出しやすくする。これにより企画の充実に繋げる。

---

## 8．実施事業 5：論文誌・学術図書等の刊行（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）

---

日本の情報分野の No.1 の論文誌として論文の投稿数，採録数の増加と論文の質の確保を継続する。英文論文誌 JIP は名実ともに基幹英文論文誌として育成・強化しインパクトファクタの取得を目指す。

### 8.1 論文誌（ジャーナル/JIP/トランザクション/デジタルプラクティス）

#### (1) 「情報処理学会論文誌（ジャーナル）」（月刊） [ 所掌：ジャーナル編集委員会 ]

##### 1) 論文の充実（論文投稿数の増加に向けた取り組み）

論文誌（一般論文，特集号論文）の月刊体制を維持し充実させる。

論文誌の価値を増すために招待論文および特集号論文の企画を強化する。

研究会および支部の年間論文推薦およびイベント推薦論文への広報を強化する。

##### 2) 論文の質，査読の質の向上（採録数の増加に向けた取り組み）

年間の論文採録数は，280 編（前年度並み）以上を目標とする。

投稿者へのサービス向上のため，論文の事務処理を簡素化および迅速化させる。

投稿・査読・編集および論文誌関連の規定を整備・充実する。

##### 3) 論文査読管理システム（PRMS：Paper Review Management System）の運用

PRMS の本格運用を開始し海外編集者も含めたオンライン編集作業の利用を促進する。

##### 4) 電子化を有効活用した改善

論文誌関連の統計情報（例：ダウンロード数）の掲示を検討する。

マルチメディア論文の受付，査読および掲載についての規定を整備する。

別刷および論文誌の印刷サービスを検討する。

#### (2) 「Journal of Information Processing (JIP)」 [ 所掌：JIP 編集委員会 ]

##### 1) JIP の海外投稿促進と国際化

定期刊行として季刊体制を軌道にのせ管理運営体制を整備する。

年間論文採録数の目標を 72 編とし，月刊化を目指す。

Web of Science 収録基準を満たし Impact Factor (IF) 取得を目指す。

編集委員に海外の研究者を迎え入れて国際化された編集委員会を本格化させる。

国際会議の優秀論文および著名な研究者の招待論文を積極的に採録する。

国内の大規模プロジェクトや GCOE などの成果論文を積極的に採録する。

JIP 独自の特集号を企画する。

JIP 掲載の無料を有効活用して英語論文の投稿を促進する。

##### 2) 論文査読管理システム（PRMS：Paper Review Management System）の英語での運用



海外の研究者を編集委員に迎えて、海外からの投稿を受け付けることを前提に論文の投稿、査読、採否決定等一連の作業を PRMS の英語版で運用を開始する。

運用経験に基づいて必要に応じた機能の追加変更を検討する。

- 3) 情報関係学会英文論文合同アーカイブズ (IMT : Information and Media Technologies) の刊行体制の維持  
IMT の編集運営会議幹事学会として、編集および定期的刊行を実施する。

### (3) トランザクション (8 誌) [ 所掌 : 各トランザクション編集委員会 ]

発行の安定性と永続性、ジャーナルとの協調、購読数の拡大を目標に、以下の 8 誌の発行を計画し、このほか新規発行計画を促進する。トランザクション合計で採択論文数 200 編以上を目指す。

「IPSI Transactions on Bioinformatics (TBIO)」	年発行 5 回
「IPSI Transactions on System LSI Design Methodology (TSLDM)」	年発行 2 回
「IPSI Transactions on Computer Vision and Applications (CVA)」	年発行 4 回
「情報処理学会論文誌 プログラミング (PRO)」	年発行 5 回
「情報処理学会論文誌 数理モデル化と応用 (TOM)」	年発行 3 回
「情報処理学会論文誌 データベース (TOD)」	年発行 4 回
「情報処理学会論文誌 コンピューティングシステム (ACS)」	年発行 3 回
「情報処理学会論文誌 コンシューマ・デバイス&システム (CDS)」	年発行 4 回

### (4) 実務活動の論文誌「情報処理学会デジタルプラクティス」[ 所掌 : デジタルプラクティス編集委員会 ]

実務活動の論文誌「デジタルプラクティス」のプレゼンス向上と読者層・著者層の開拓  
査読基準の確立

社会的有用性を重視した査読基準の確立・共有と、実践に関する記述例の蓄積に努める。

特集企画の充実と一般投稿の促進

IT 産業に従事し、論文執筆に馴染みの薄い方々に対して、「デジタルプラクティス」論文発表のメリット (自身の業績や研究成果を論文の形で半永続的に残すこと等) を訴求する。

安定した刊行に向けた体制の整備

査読委員・編集担当の確保、モニター制度の充実、収益の改善など、安定した刊行のための体制整備に努める。当面、冊子体での刊行を継続する。

ソフトウェアジャパンや連続セミナー・短期セミナー等のイベントおよび他団体等との連携

「デジタルプラクティス」論文を通じて公開・共有すべき知見を効率良く見出す場を創出し、またそのような知見を情報処理コミュニティの中で積極的に有効活用する枠組を創出する。

### (5) その他

各誌の優れた論文を顕彰するため、論文賞、デジタルプラクティスアワード等を贈呈する。

## 8.2 専門誌：教科書シリーズ [ 所掌 : 出版委員会 ]

既企画の見直しにより発行が可能なものがあるかどうか、あるいは既刊本のメンテナンスのため、年 2 回のペースで委員会を開催する。

## 8.3 用語解説等の無料公開 (歴史資料、コンピュータ博物館の公開を含む)

### (1) 歴史資料の公開 [ 所掌 : 歴史特別委員会、コンピュータ博物館小委員会 ]

「情報処理技術遺産」「分散コンピュータ博物館」の認定 ( 12.3 項に同じ )

「コンピュータ博物館」の充実  
オーラルヒストリーの編集・公開

#### 8.4 電子図書館事業の推進 [所掌：デジタルコンテンツ事業検討委員会]

刊行物オンライン化のメリットを活かし、デジタルコンテンツの論文としての利用を推進する。

NII等の電子図書館事業に関わる他組織と連携し、オンライン刊行物を利用した新しいビジネスモデルと事業を推進する。

学会コンテンツを掲載している複数の電子図書館プラットフォームの統合を検討する。

---

## 9．実施事業6：標準化活動（定款第4条1項3号）

---

従来、機会があれば万遍なく対応してきた標準化活動であるが、厳しい経済状況の中、限られた活動費を有効に活用するために、各委員会の活動状況や計画を検討した上で国際標準化戦略を踏まえて資源の重点化をするためのステークホルダーによる議論の場を次年度に設けるように機構の見直しを進める。

### 9.1 情報規格調査活動 [所掌：情報規格調査会]

#### (1) ISO/IEC JTC1 対応組織としての貢献

JTC1 直下の WG で、次期の標準化領域の候補として検討が始まっている SC38 ( Distributed Application Platforms and Services ) や SC39 ( Sustainability for and by Information Technology ) や SmartGrid の IT 的な側面の分野など JTC1 の長期検討 WG で俎上に上がっている分野に今後日本としてどのように取り組んでいくかについて、国益や他の標準化団体との関係を踏まえつつ、戦略的な対応を行っていく。またステークホルダー（規格賛助員、SC 対応委員会、監督官庁など）による検討の場を設けるように機構の見直しを進める。

議長、幹事国、コンビーナ、プロジェクトエディタ等を引き受けているものも含め、収束を見極め人的資源の集中化・重点化を図る。

ビジネス機械・情報システム産業協会（JB Mia）や電子情報技術産業協会（JEITA）などの協力を得ながら積極的に対応を図っていく。

日本提案による国際標準化を推進する。今後も日本発の提案がなされるよう各委員会に働きかけを行い、提案実現に向けて積極的な支援、アドバイスを行う。

#### (2) 健全な情報規格調査会の運営の維持

比較的小規模の企業・組織向けの規格賛助会費体系を設定し、新規規格賛助員の獲得を行う。

限られた活動費をより有効に利用するため、各 SC 対応専門委員会の活動実態に即した費用負担予算配分モデルの実現に向けて、機構の見直しを進める。

今後学会における標準化事業に関する連絡会の設置の検討を行い、学会内での情報共有を含めた運営体制の強化を図る。

#### (3) 広報活動

目的と対象を明確にして、より効果的な内容・方法の検討を行う。

---

## 10．実施事業7：国際活動（定款第4条1項5号および2号）

---

理事担務を見直し，調査研究理事を中心に各理事がそれぞれの担当事業の中で国際活動を担当する。

### (1) IEEE-Computer Society との連携・協力

The 2012 Symposium on Applications and the Internet ( SAINT2012 ) の開催  
日程：2012年7月16日（月）～20日（金），場所：Izmir, TURKEY，  
参加者見込：150～200名（前回161名）  
Program Chairs：Kazutoshi Fujikawa ( IPSJ ) ，Ying Cai ( IEEE-CS )  
全国大会での IEEE-CS 会長招待講演予定

### (2) 海外学協会との連携・協力

The Korean Institute of Information Scientists and Engineers ( KIISE ) との連携・協力および双方  
の全国大会での会長の交互招聘・招待講演の実施  
下記の学会との協力関係の継続

- The Institute of Electrical and Electronics Engineers ( IEEE )
- Association for Computing Machinery ( ACM )
- Computer Society of India ( CSI )
- Association Francaise des Sciences et Technologies de l'Information ( ASTI )

The International Association for Pattern Recognition ( IAPR ) 活動への参加

### (3) International Federation for Information Processing ( IFIP ) 活動への参加 [ 所掌：IFIP 委員会 ]

IFIP 日本代表ならびに TC-Chair の総会 General Assembly ( GA ) ・理事会 Council への参加  
各 TC 日本代表の TC-meeting への参加  
IFIP 活動周知の活性化

### (4) 国際会議

SAINT2012（前(1)項参照）のほか，下記の国際会議を開催する。

- The 6th International Conference on Mobile Computing and Ubiquitous Networking ( ICMU2012 )  
2012年5月23-25日，沖縄カルチャーリゾート フィストーン（日本）
- 6th International Conference on Collaboration Technologies ( CollabTech 2012 )  
2012年8月27-29日，北海道大学国際交流会館（日本）
- The 7th International Workshop on Security ( IWSEC2012 )  
2012年11月7-9日，九州大学 西新プラザ（日本）
- The 21st International Conference on Pattern Recognition ( ICPR2012 )  
2012年11月11-15日，つくば国際会議場（日本）

---

## 11．その他：関連学協会等との連携および協力（定款4条1項6号）

---

目的を同じくする学協会との連携および協力を行う。情報サービス産業協会 ( JISA ) ，日本情報システム・ユーザー協会 ( JUAS ) ，情報処理推進機構 ( IPA ) 等とも新たな協力関係を構築する。

## 11.1 関連学協会・日本学術会議

### (1) 電気・情報関連学会連絡協議会および日本工学会への参加

電気・情報関連学会連絡協議会および日本工学会に参加し、関連学協会との協力連携を図る。

### (2) 研究発表・学術講習会等の共催

電子情報通信学会（情報・システムソサエティおよびヒューマンコミュニケーショングループ）との共催による「情報科学技術フォーラム（FIT）（前 6.1 項参照）」ほか、研究発表会および学術講習会において関連学協会等と適宜共催を行う。

### (3) 日本学術会議など関連団体等への協力

引き続き、日本学術会議などの関連団体等に協力する。

## 11.2 会議の協賛後援等

関連学協会等からの要請に応じて適宜、会議の協賛後援等を行う。

---

## 12 . 法人運営

---

会員の視点での会員サービスのあり方を検討する。必要に応じて会員制度や会員管理システムの見直しを実施する。

## 12.1 入会促進・情報発信・広報活動

### (1) 新規会員の獲得と会員減の防止

新規会員獲得のための地道な勧誘や企業への働きかけを継続するとともに、引き続き、退会要因の分析による退会防止に努める。

会費の口座引落等の推進により「滞納 資格喪失」を防止するよう継続して対応する。

賛助会員のメリットを引き続き検討するとともに、新たな賛助会員の獲得、および口数の増加に積極的に取り組む

### (2) 学生会員の獲得と育成

引き続き学生会員の 1 研究会登録の無料化を継続し、学生会員の研究会参加を促進するとともに、研究会と支部の協力を得て、学生会員の新規獲得と正会員への定着率の向上に努める。

### (3) 情報科学技術開発に関する政策提言の推進

情報科学分野で日本を代表する学会としての立場から、国の政策等に対して逐次適切なコメント・提言が可能となるような体制を整備し、対応を推進する。

### (4) 情報発信の推進

積極的な社会提言・情報発信により、学会の一層のビジビリティ向上を図る。

各種行事等の場での入会促進、電子メールによる学会紹介、IPSJ メールニュースの充実、ニューメディアの活用、情報関連展示会等での本会紹介などにより広報活動を推進する。

## 12.2 運営体制の充実・改善等

### (1) 理事の担務および委員会組織の見直し

学会運営ならびに諸活動の強化・向上のため、理事の担務および委員会組織を見直し、2012 年度から改善対応する。

### (2) 実務家向け活動に関する運営改善

実務家向け活動の一層の強化・充実のため、新たな「技術応用運営委員会」を設置し、IT フォーラムの運営、セミナー開催、デジタルプラクティスの編集、資格制度の構築などの関連活動を統括・企画運営するとともに、新たに「技術応用」担当理事を設けて対応する。

また、情報サービス産業協会（JISA）や日本情報システム・ユーザー協会（JUAS）などとの相互協力により、情報サービス関連団体との連携強化を図る。

### (3) 中長期計画を踏まえた運営改善

「魅力ある学会」に向け、学会活動に関する中長期計画を踏まえつつ、第三者機関であるアドバイザリーボードの助言も得て、引続き学会価値の向上と運営の改善への取り組みを継続させていく。

### (4) 諸活動の評価のためのデータ収集の継続

引続き関連データの収集・分析を継続し、諸活動の評価・改善を継続していく。

### (5) 電子化の推進

デジタルコンテンツ事業検討委員会の結論に従い、サイトライセンスを含むオンライン刊行物を利用した新しいビジネスモデル事業を推進する。

BCP を策定し、災害への対策のためクラウドサービス等も検討する。

会員サービス向上のためのシステムの仕組みを検討する。

## 12.3 その他表彰等

功績賞、学会活動貢献賞、感謝状の贈呈のほか、フェロー認定、情報処理技術遺産・分散コンピュータ博物館の認定等を行う。

以上

## 【付表1：研究会・研究グループ】

### 【コンピュータサイエンス領域：研究会（10）（括弧内は英略称）】

データベースシステム（DBS），ソフトウェア工学（SE），計算機アーキテクチャ（ARC），システムソフトウェアとオペレーティング・システム（OS），システム LSI 設計技術（SLDM），ハイパフォーマンスコンピューティング（HPC），プログラミング（PRO），アルゴリズム（AL），数理モデル化と問題解決（MPS），組込みシステム（EMB） 各研究会

### 【情報環境領域：研究会（17）（括弧内は英略称）】

マルチメディア通信と分散処理（DPS），ヒューマンコンピュータインタラクション（HCI），グラフィクスとCAD（CG），情報システムと社会環境（IS），情報基礎とアクセス技術（IFAT），オーディオビジュアル複合情報処理（AVM），グループウェアとネットワークサービス（GN），デジタルドキュメント（DD），モバイルコンピューティングとユビキタス通信（MBL），コンピュータセキュリティ（CSEC），高度交通システム（ITS），システム評価（EVA），ユビキタスコンピューティング（UBI），インターネットと運用技術（IOT），セキュリティ心理学とトラスト（SPT），コンシューマ・デバイス&システム（CDS），デジタルコンテンツクリエーション（DCC） 各研究会

### 【メディア知能情報領域\*：研究会（12），研究グループ（2）（括弧内は英略称）】

自然言語処理（NL），知能システム（ICS），コンピュータビジョンとイメージメディア（CVIM），コンピュータと教育（CE），人文科学とコンピュータ（CH），音楽情報科学（MUS），音声言語情報処理（SLP），電子化知的財産・社会基盤（EIP），ゲーム情報学（GI），エンタテインメントコンピューティング（EC），バイオ情報学（BIO），教育学習支援情報システム（CLE） 各研究会  
ネットワーク生態学（NE），会員の力を社会につなげる（仮）（SSR） 各研究グループ

\*今年度より名称変更

【付表2：シンポジウム・ワークショップ等】

シンポジウム等名（主催研究会）	開催日	場所
先進的計算基盤システムシンポジウム SACSIS 2012 （ARC, OS, HPC, PRO）	2012. 5.16(水)-18(金)	神戸国際会議場
マルチメディア, 分散, 協調とモバイル (DICOMO 2012) シンポジウム (DPS, GN, MBL, CSEC, ITS, UBI, IOT, SPT, CDS, DCC)	2012. 7. 4(水)- 6(金)	山代温泉 ホテル百万石
画像の認識・理解シンポジウム (MIRU2012) (CVIM)	2012. 8. 6(月)- 8(水)	福岡国際会議場
ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム 2012 (SES2012) (SE)	2012. 8.27(月)-29(水)	東京電機大学
DA シンポジウム 2012 (SLDM)	2012. 8.29(水)-30(木)	下呂温泉 水明館
iDB フォーラム 2012 (DBS)	2012. 8.	名古屋大学
情報教育シンポジウム (SSS2012) (CE, CLE)	2012. 8.20(月)-22(水)	三保園ホテル
エンタテインメントコンピューティング 2012 (EC)	2012. 9.28(金)-30(日)	神戸大学
CG リサーチフォーラム (CG)	2012. 9.	パシフィコ横浜
コンピュータセキュリティシンポジウム 2012 (CSEC, SPT)	2012.10.10(水)-12(金)	くにびきメッセ
組込みシステムシンポジウム 2012 (ESS2012) (EMB)	2012.10.16(火)-19(金)	柳井° ック青少年センター
マルチメディア通信と分散処理ワークショップ (DPS)	2012.10.17(水)-19(金)	ホテル奥道後
情報科学シンポジウム (CDS, DCC)	2012.10.19(金)	愛知工業大学
SOUUPS2012 論文読破会 (SPT)	2012.10.	セコムホール
ゲームプログラミングワークショップ (GPW) (GI)	2012.11. 9(金)-11(日)	箱根セミナーハウス
第 24 回コンピュータシステム・シンポジウム(ComSys2012)(OS)	2012.11.15(木)-16(金)	学術情報センター
グループウェアとネットワークサービスワークショップ 2012(GN)	2012.11.22(木)-23(金)	(未定)
WebDB フォーラム 2012 (DBS)	2012.11.	(未定)
GN 研究会 20 周年記念シンポジウム (GN)	2012.11.	(未定)
インターネットと運用技術シンポジウム(IOTS2012) (IOT)	2012.12. 6(木)- 7(金)	(鹿児島)
情報アクセスシンポジウム 2012 (IFAT)	2012.12.	(未定)
災害コミュニケーションシンポジウム (仮称) (SPT)	2012.12.	(未定)
人文科学とコンピュータシンポジウム (じんもんこん 2012) (CH)	2012.12.	(未定)
高度交通システムシンポジウム 2013 (ITS)	2013. 1.18(金)	日本科学未来館
ウィンターワークショップ 2013 (SE)	2013. 1.24(木)-25(金)	(未定)
2013 年ハイパフォーマンスコンピューティングと計算科学 シンポジウム (HPCS2013) (HPC)	2013. 1.	(未定)
インタラクション 2013 (HCI, GN, UBI, EC)	2013. 2.28(木)-3.2(土)	日本科学未来館

(参考) 情報処理学会中長期計画 2012年度版 (2012年3月21日現在)

情報処理学会 中長期計画			2010年度				2011年度				2012年度				2013年度				2014年度	2015年度	2016年度								
項目	方向性	キーワード	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q										
学会誌	面白い読み物	特集から連載へ 収支改善	季節感を考慮した編集・発行				毎号記事100ページ以内に制限(DP込で500g以下)				新連載企画				広告付記事・解説論文の販売検討														
	ファンの拡大	会員拡大 会員繋ぎ止め	賛助会員モニタアンケートによるフィードバック				細川プロジェクト連載				オンライン出版の検討				記事ごとの販売・オンデマンド出版の強化						会員増への期待								
	震災復興支援		震災メッセージ				9月号特集「危機発生への対応」				特集「震災検証」																		
論文誌	投稿数増 採録数増	論文投稿件数 論文採録数増	73回全国大会で「論文の書き方・査読の仕方」セッション開催				74回全国大会で特別セッション開催				特集号企画、推薦論文の広報活動(I)				75回全国大会で特別セッション開催				特集号企画、推薦論文の広報活動(II)						新編集方針の開始(予定)				
	IF取得	海外からのビジビリティ グローバル化	季刊化、A4縦型フォーマット、海外編集委員選出				トムソンへIF申請				論文数目標(ジャーナル280本、JIP 72本)				Citation指標 = 0.5?				インパクトファクタ取得・海外からの本会ビジビリティの向上						インパクトファクターの向上				
	震災復興支援		JIP掲載料免除による論文投稿促進				DBLP収録				JIP季刊化、JIP海外編集委員、PRMS新版を使った会議				JIP掲載料無料化の1年延期				JIP採録数(特に海外から)の促進計画 目標100本 Citation指標 = 1.0?						JIP月刊化(予定)				
調査研究	研究会活性化	制度見直し 新研究分野	分野・領域制見直し				新領域制度制定(FR->MI名称変更)				グローバル対応の取組検討(IFIP他)				調査研究の役割強化(政策提言、国際連携、政府・学術会議連携)														
	参加者増	魅力度アップ	震災対策・復興支援(各イベントで実施*2)				ベストプラクティスの収集と展開				新たな参加方法(遠隔参加等)の検討				新たな参加方法の具体策の検討														
	震災復興支援		イベント自粛(4月)/開催場所変更*1/関連講演など*2				復興デザインコンテスト																						
事業 技術応用	イベント活性化	大会アウトプット増 FITアウトプット増	東京開催(東工大)				名古屋開催(名工大)				集客増:会員の2割(募集強化)				仙台開催(東北大学)				集客増:会員の2.5割				会員の3割	会員の4割					
	ITプロフェッショナル コミュニティ構築	ITフォーラム SWジャパン	新フォーラムの掘起し				関連団体等との連携				新フォーラム設立				企業会員へのサービス・情報提供、人的交流の場				鳥取開催(鳥取大学)										
	震災復興支援		情報発信 関連団体等との連携				参加費有料化を含めた収入増の施策検討				収支改善、他部門連携強化																		
		連続セミナー・短期セミナー	実施時期延期				9月スタート				短セミ2年2回				連セミ:ビッグデータ														
		DP	認知度向上、投稿・掲載増				アンケート評価				印刷費見直し/SJ、短セミ等との連携強化/JISA等と連携/発行の安定化/論文増				掲載料徴収/特集テーマの総括										オンライン化				
		IT資格制度	制度設計				実施試案、PR活動、会誌特集				DP特集号				制度案公表、パブコム				関連部門(経産省、IPA、文科省等)とのコンセンサス				資格認証施行、プレゼンス向上・会員増						
		実務家向け活動全般	WG発足、ビジネスモデル検討				答申、具体化に着手								運営の黒字化に向けた検討														
規格 標準化	時代変化への対応	制度改革	新規標準分野への積極的取組				新規標準分野へのさらなる積極的取り組み				標準の重み付け検討				テレコンファレンス環境の整備検討(国内、海外)				標準の重み付けのさらなる検討										
	運営の安定化	役員会の改革	役員会の担当制の見直し				事業構造の整理とそれぞれの費用負担の再検討				本部との情報共有の場の新設				賛助員へのコスト構造の説明と賛助プロモーション				賛助会費と権利の関係見直し										
	震災復興支援		一般社団法人移行対応				規格運営諮問委員会 答申				共通インフラ部分、国際セクレ部分の財源検討																		
その他	教育活動	人材育成ビジョン	ビジョン検討				提言:情処教育ビジョン2011				推進:情処教育ビジョン2011																		
		J07の後継カリキュラム	「べた語義」会誌掲載				「べた語義」会誌掲載継続				JABEE、JST等受託																		
	学生会員育成	学生会員を2500名以上に 昇格者を400名以上に	情報系大学の拠点校化(支部インセンティブ、ベストプラクティス共有から着手)				1研究会無料登録の継続/カード決済の導入検討/会費請求時期の前倒し検討				主要大学教授への学生勧誘依頼																		
	デジタルコンテンツ事業	新たな成果発表形態	マルチメディアコンテンツの扱い対応(著作権、論文としての扱いの検討など)				PDF埋め込みのマルチメディアの利用				電子図書館の整理統合				新たな形の成果発表・情報発信の推進														
		新ビジネスモデル	新たなサービスとビジネスモデルの策定、サイトライセンス検討(他組織との連携を含む)				購読者向けオンラインアカウント				サイトライセンスへの移行シナリオ				CD-ROM廃止、サイトライセンスサービス開始														
コンピュータ将棋	トップ棋士との対局	コンピュータ将棋の強化/関連技術の他分野への応用促進				全国大会イベント				全国大会イベント、シンポジウム等				トッププロ棋士との対局・勝利															
	非会員、青少年にPR	コンピュータ将棋に関するイベント開催(アマ強豪と対戦、CEDECに出展)				あから「2013(仮称)」の最新版開発								学会外への情報処理技術のPR、青少年の情報処理技術への関心の喚起															
	震災復興支援		会長メッセージ				復興支援運営委員会設置				復興デザインコンテスト 日本工学会シンポジウム(白鳥前会長)														復興事業後期				
事務局	会員サービス		クレジット決済検討				クレジット決済導入				適用拡大				会費支払														
	情報システム		地震対策(復旧、緊急措置)				地震対策(バックアップ)				課題検討・優先順位付(コスト削減、BCP対策・クラウド化、会員サービス向上、既存システム更新、個別課題等)																		
			PRMSオンライン会議対応				クレジット決済対応				PRMS機能拡張の検討(既存サービスの利用も検討)				クレジット対応ツール開発				会員サービス向上に向けた開発										
	学会Web		リニューアル・CMS化				季節感																						
	学会組織		英文Web更新				英文Web CMS化				英文Webリニューアル				英文Webの充実				英文Webの充実つぎ										
震災復興支援		被災者会費減免				省エネ*3、ライフスタイル変革(Warm Biz)				Cool Biz				Warm Biz				Cool Biz				Warm Biz				Cool Biz	Warm Biz	Cool Biz	Warm Biz

\*1:開催場所の変更 DICO2011 7/6-9 天橋立、SES2011 9/12-14 東京 \*3:事務局省エネ 電力消費は8月末現在で対前年ほぼ20%削減  
 \*2:関連講演 SACSIS 2011(5/25-27)招待講演「地震津波シミュレーション」  
 DICO2011(7/6-8) テーマ「日本を元気にするICT」  
 MIRU2011 (7/20-22)震災特別セッション「震災復興へのビジョン」